

# 本草圖譜

芳草部

六

					和書門
		一	三		
		一	六		
六	六	九	七		
册	架	函	號	類	

庫文閣内					
一		三			和
九		六			書
六	六	七			
函	册	號	類		

内閣文庫		
番號	和	367
册數	6	( 6 )
函號	196	194



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

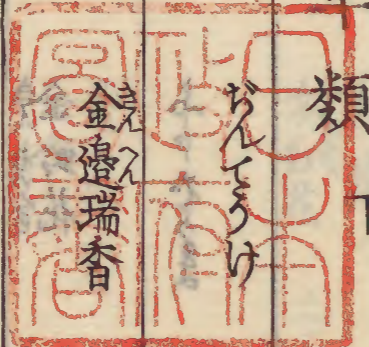


本草圖譜卷之十目錄



芳草類

瑞香



類下

金邊瑞香

一種

とふまゝ

一種

千辨の物

一種

黄素馨

一種

木木の

澤蘭

桂

一種

白花の物

一種

黄瑞香

茉莉

まろふん

素馨

鬱金香

一種

白

本草圖譜 卷之十目錄

一 雜園 樹 枝

一種	排草香	木本の物	七	茅香	かうきう	八
一種	迷迭香	かんきう	五	藿香	白花	九
同	新渡の物	かんきう	五	藿香	舶来の物	十
一種	金鈴花	きんねい	十二	一種	銀鈴花	十三
一種	蘭草	ふたむら	二	山蘭	ひまきう	十四
一種	秋蘭	らん	六	春蘭	ふら	十五
				澤蘭	まらわら	十六

一種	石香薷	せきかう	二十	馬蘭	こんぎう	十七
一種	假蘼	のか	二十	香薷	りぬ	十八
一種	積雪草	つゆ	廿二	爵牀	りぬ	十九
一種	圓葉薄荷	えん	廿二	薄荷	めく	廿一
一種	水蘼	みづ	廿四	石薄荷	い	廿三
一種	薺薺	あ	廿四	一種	あ	廿五

石薺 廿四

薺 廿四

石薺

廿五

石薺

石薺

石薺

廿五

石薺

石薺

石薺

廿五

石薺

石薺

石薺

廿五

石薺

石薺

石薺

廿五

石薺

石薺

石薺

廿五

石薺

石薺

石薺

廿五

本草圖譜卷之十目錄終



本草圖譜卷之十

東都

岩崎常正著

芳草類

下

四十七種

本草圖譜卷之十 芳草類 下 四十七種

本草圖譜 卷之十 岩崎常正著

瑞香びやくかう

ぢんとけり

人家庭際にやうかていざいに栽うゑ小本せうぼん高さ三四尺さんじゆしちに過すず四時よつじ凋しゆび葉は冬ふゆ青あおに似にて  
 厚あつく正月しんげつ花はなあり四瓣よびだん花はなに似にて厚あつく大おほく外そと紅紫色べにむらさき内うち淡紅色たんじやく  
 香氣かうき強つよし



本草綱目

卷之十

瑞香

灌園階藏

一種 白花の物

白花ゆて紅実を結ぶ  
味辛、故に誤て胡椒の  
木と呼ぶ毒あり食らふ  
べからず時珍云有黄白  
紫三種と其白みのあり

金邊瑞香

秘傳  
花鏡

葉の厚  
黄色  
色あり  
と云



一種

黄瑞香

秘傳  
花鏡

みろり



駿州より多く栽培高さ六  
尺枝幹瑞香に似て必三  
又を冬月花房を  
白色下無す春に至て  
開くと四瓣黄色香  
本葉二月半す桃葉  
似て先圓い皮を紙を漉

一種

とふさり

竹林中

多し美

大戟に似て小木あり冬月枝

間小花あり形丁香に似たり

赤色の實を結ぶ抱子小似て

花



茉莉

まろやん

川薩

琉球より来る今多し小本

あり葉圓して淡綠色對生

夏秋の間白花を開く抱子花に

似て小く香氣あり

千瓣の物あり

圓く小くあり

花十餘瓣あり







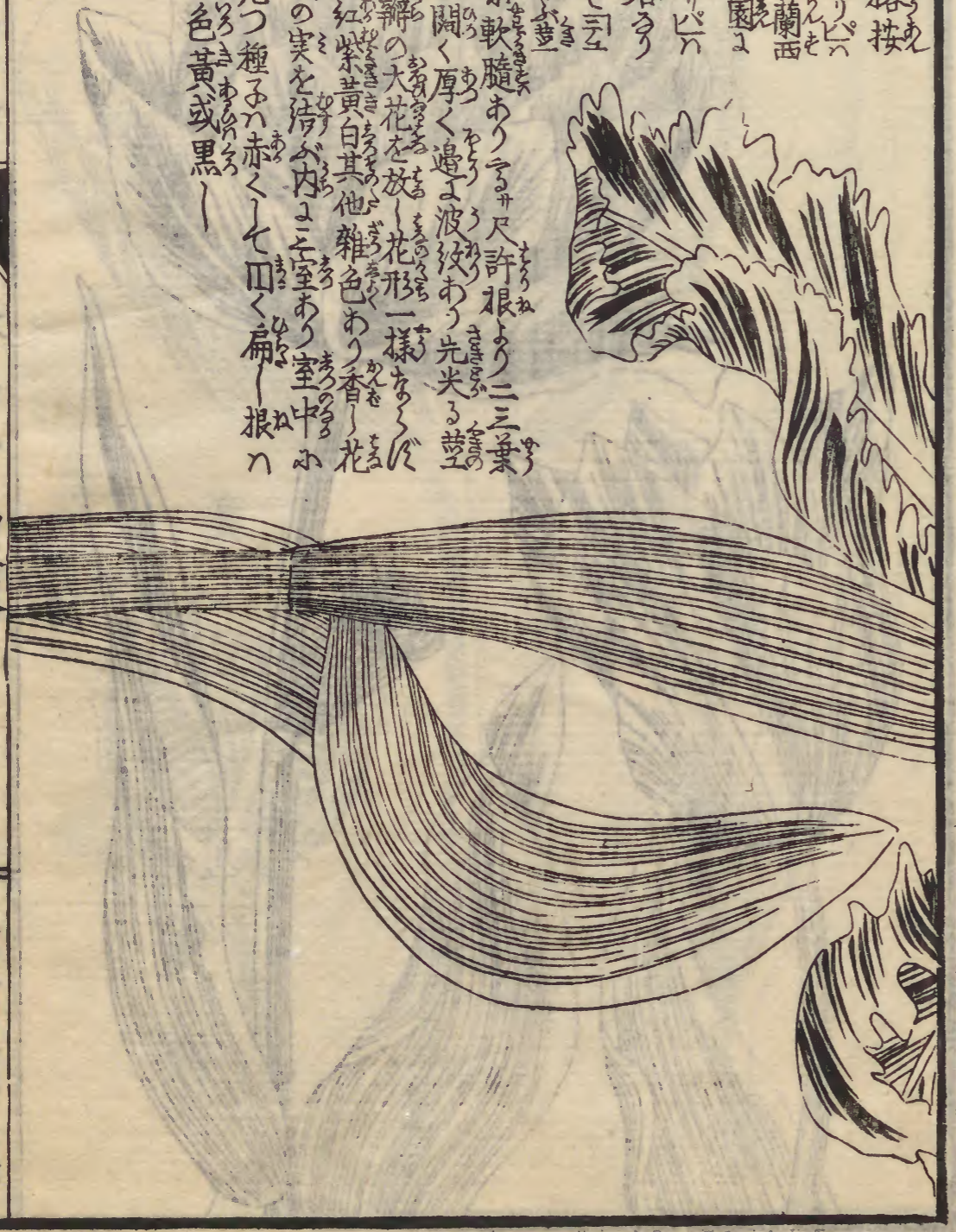
鬱金香

荷蘭ウチシマンの圖なり  
花色品類甚多一其中  
一二品をこゝに寫す時珍の  
説に唐書云太宗時伽毘  
國獻鬱金香葉似麥  
門冬九月花開狀似芙蓉  
其色紫碧香聞數  
十步花而不實と云是  
あり又  
魏略  
云天  
泰西  
月言  
有花狀如紅  
藍四月五月様  
花即香



千ナリハ 鬱荷を

宇田川榕按  
ハナニナリハ  
和蘭佛蘭西  
等の花園  
養ニテナリ  
羅甸の名  
和蘭中ニ  
ルンと呼ぶ  
圓く中軟脆ありテ尺許根より二三葉  
生れ葉開く厚く邊は波紋あり先尖る莖  
頭ニ六瓣の大花を放し花形一様なり  
色も亦紅紫黄白其他雜色あり香花  
後三稜の實を結ぶ内ニ空あり室中  
種子充つ種子の赤くして四く扁根ハ  
球めて色黄或黒



一種



一種



實

一種

木本の物



荷蘭空イ  
 ミイ載る樹の  
 鬱金香うつ余須阻徳按向毗達磨俱舍論第十三卷音義云鬱金  
 此樹名出罽賓國其花黃色取花安置一處待爛取計以物和之  
 為香花和猶有香氣亦用為香也下云此物ナリ

茅香

かうたう 戸江

武州堀の内原野柿あり  
 宿根より生る葉の香観草  
 似て初夏短き穂を生る  
 茅の穂似て短く白色と  
 帯根白色糸の如く香氣  
 あり



春葉

秋葉

排草香

かろみどう



武州道灌山あり宿根あり生る葉の背は  
 似てく光て狭く方茎對生し高さ四五尺夏  
 秋の間穂をわし小紫花を開く紫花は  
 似て密多一種三尺許り花ありあり一種  
 白花の物あり俗に青葉香と云ふ非也  
 根は鬚多く長さ五六寸あり莖葉良薬なり  
 本經逢原云以排草葉為香とあり排草  
 の埋草香のかろみどうの葉ありと先輩云り



白花の物

迷迭香

まんじゅんろう



荷蘭より種渡り今多し四時  
不凋苗葉硬く小木の如く葉  
細長ゆして光澤あり花と蔓  
葉は似て小く淡紫色葉芳香  
味甚辛く蔓荊の氣味に似たり

藿香

文政年中舶来の物



藿香

ナルヒア 羅甸

新渡の物青葉を呼ぶを其ま寫生を其形窳面方莖葉の模倣を似て稍狭く鋸齒あり而對す形かたふの葉は似たり本經逢原亦以排草葉偽充と云莖高さ三尺枝多く葉芳香なり此物時珍の説に符合す和産あきりのあり



實

本草綱目 卷之十 藿香 上 藿園

薰草零陵香

セキクサ

メリロテニス 羅旬

又黄と云ふとも平眞の零陵香の和産  
 詳るるに舟来りてむらさき色の零  
 陵香と呼ぶもの即救荒本草に載  
 草零陵香と云ふをきく此種より  
 下総国分臺及中山邊より生あり  
 宿根より生き葉の首宿より似て細  
 長く花の穂をさして小黄花を開く  
 形赤小豆花に似て小實の蘿蔔  
 子に似たり葉の味辛く根黄白色  
 細長なり



一種



又舶來金陵香の品は豆の葉と呼ぶあり  
此葉の形は包紙に似て光澤あり五瓣の黄  
花を開き小圓子を結ぶ文月盆裁ゆへ中  
藏れは苗を種郁る香氣あり故に熱國  
常の香ありて茎葉味苦此物知興備急本  
草の圖に符合も又種を信州草津及  
房州産を宿根より生ずる雜冠に似て背紫  
莖は三尺餘梢二三寸の穂をこして小  
圓子を結ぶ形は包紙に似て葉味苦香氣あり



金鈴花 俗和

銀鈴花 俗和



蘭草

ふたむかき

エウパトリ云 子子セ 羅句

人家多く栽養三丈あり 圓莖對生 一丈三四尺花小く  
淡紫色 香あり 香気あり



山蘭

正

ヨモギ 柳漢三

エウパトリ云

ヤボミキニム

羅句

山野自生多葉一  
丈あり花ハ蘭草  
の如クして白色  
又又白ふむかま  
と云



一種



圓葉の物あり近年  
産州より來るもの形  
續断より似て厚く光  
澤あり圓茎萌生し  
るさ一尺餘茎紫色  
香氣あり花ハ山蘭の  
如く微紅色なり

春蘭 正誤

かろ

處々山中のあり  
葉の形ハ冬は硬  
く春は軟く  
一葉一花形連蘭の如  
根ハ一尺白色なる羅  
願黃庭堅謂一幹一  
花為蘭者指此也



秋蘭 誤正

らん



朝倉義方云伊豫大洲名産也葉  
硬く長く長一紀州木の本新宮屋敷島  
の産れり次和歌山の五里許熊野の  
産遠州駿州豆州又次之房州の下口  
なりと云秋花を開く香氣あり根は春  
蘭より肥く漢土にて此類を集る  
書の百花録群芳譜等小多し和  
産も又多しとて又圖説と云ふ別  
つらと云ふ



澤蘭

さへびらぎ 和名 エウパトリウム アルビウム 羅名

今俗よさへびらぎとの入山野ふゆ宿根ありは冬萎みの蘭草に似て狭く六葉對生一  
微毛茸あり花も蘭草に似て白色根又蘭草の如し蘆頌の説は葉尖微有毛不  
先澤と云ひ是あべ



一種

茎紫色ありて  
光り細点あり葉  
甚狭長もの  
なり



馬蘭

人家多栽難兒腸みもの  
一種より嫩苗微毛茸あり  
秋月花わつものあかほ  
紫赤色又淡紅花白  
花等あり



一種 淡紅花の物

一種 白花の物



本草綱目 卷之十一 馬蘭 灌園附載



香薷 かろ おろ いぬえ 和名 鈔

山野小多一實  
より生れ其の  
花は似て狭く  
尖り秋月 莖  
高三三尺 梢小穂をの 小紫花を開く  
一方へ曲りて長刀の形をあらぬ故に  
香薷と云ふ芳気ある薬用す  
大葉の物の下品なり

石香薷 せきかろ おろ いそかろ 和名

山中稀よりあり形状香薷に  
似て小く花白色なり

石香薷



爵狀 あきさき いぬかろうかお

又尾州の多みさうといふ  
海邊濕地は多し苗秋生す  
冬を経て春月莖さ二三尺  
許葉ハ枚葉に似て嫩あり  
徳長く紫藤に似て淡紫  
色氣臭く味苦し夏の末  
苗共み枯る



假蘇 の 及 種 群

處くふ多し 春月實を  
下して生る 葉細長五分  
あり 方茎對生 莖高  
二三尺 穂をちかく淡紫色の  
小花と開く香あり





薄荷

めいご

メタ  
ビリタ 羅甸



原野の濕地に生る方  
茎葉平葉圓く尖  
あり葉を揉む甚芳  
香るり茎高三三尺  
節間二小葉淡紫  
花を閑く一種多圓  
く大なるもの此物  
上呂る

一種

まろ毛薄荷 俗和

ひめくちも云々九州野の産  
あり形前種に似て小圓  
淡紫花を開く香氣亦良  
方草對生一葉直立す  
蔓の如く藤本云一種蔓生  
の物これあり



越後及江洲伊吹山あり葉の形  
遠志に似て對生葉細く紅色  
地上は節の根を下り葉味  
辛く乳香一夏月梢淡紫色の  
小花撒族て葉の  
如く薄荷に似て氣  
味辛烈あり

一種

石薄荷 蘇解  
伊吹山なるもの  
ウレタ テーム和蘭

積雪草

つる薄荷 俗

羽州中かんさうのこまこま  
小児の疳病に功あるゆゑ  
名は山野に多し葉の  
馬蹄の如くして雲頭の  
如き鋸齒あり茎地上と  
蔓延を春月紫花を  
開く形黄芩花に似たり  
茎葉香し氣薄荷に似たり



蕪

のらゑ 和名

ちのめんちあてをり  
葉の面背皆紫  
色をて綴り花  
淡紫色をり



一種 かみゆんまそ

背紫めて  
面緑色と  
ものまろ



一種 むをまそ

形ちゆんまそ  
似て茎葉み  
緑色香氣ハ  
ゆんまそと  
花白色



水蘓

あだぎれ

作州方言云此草を採  
婦人の乳腫傳て治むるに  
効あり

田野に多し実より  
生るる香葉は  
小く方茎對生高  
一尺餘穂の形葉  
細小く花白色は  
微紅紫色を帯び微  
香氣あり味辛  
時珍の説は似蘓  
好生水旁と云入水蘓薺草一類二種爾



水蘓氣香薺草氣臭為異と云是  
水蘓氣香薺草氣臭為異と云是

薺草

あだぎれ



田野に多し形水蘓に似て  
葉稍大く微毛ありて圓く鋸  
齒淺く枝幹は全く蘓に似て  
高さ二尺許花穂又紫蘓に  
似て薺草小淡紫色を帯び集  
解の説は符合す味辛く稍  
臭氣あり

石薺 葶附

勢州朝熊山一産之方言不詳  
形水薺又似之矮小者花穂ハ  
薺葶ニ似て短小花白色ハ  
微紫を帯ル



本草圖譜卷之十終

椿薺

岡田清福摸寫



三都書林

文政十三年刊本

同所	同芝神明前	同二町目	東京日本橋通壹町目	同安土町	京都寺町通松原下ル	大坂心齋橋北久太郎町	勝村治右衛門
兩國横山町三町目	日本橋通二町目	太田金右衛門	牧野吉兵衛	佐久間嘉七	小林新兵衛	北畠茂兵衛	石田和助
柳原喜兵衛	柳原喜兵衛	石田和助	北畠茂兵衛	小林新兵衛	佐久間嘉七	牧野吉兵衛	太田金右衛門
稻田佐兵衛	稻田佐兵衛	稻田佐兵衛	稻田佐兵衛	稻田佐兵衛	稻田佐兵衛	稻田佐兵衛	稻田佐兵衛

